



犬山城

37 雨二題 川村曼舟

対幅

大正十一年(一九二二)

絹本着色

各八四・〇×一一四・四

題名の通り、木曾川のほとりに建つ犬山城(愛知県犬山市)と八尾富神社を祀る竹島(愛知県蒲郡市)をいずれも雨に煙る姿で描いた作品。大正十一年(一九二二)の第四回帝展出品作で宮内省によって買い上げられた。

作者の川村曼舟(一八八〇〜一九四二)は京都に生まれ、山元春挙に学び、その画塾早苗会の代表として師の没後も会を統率して後進の指導にあたったことで知られる。その画風は、春挙の叙情的な風景描写の影響が色濃く、清澄な山水、山岳を得意とした。大正五年および六年には、それぞれ《竹生島》、《日本三景》を帝展に出品し特選となるなど、景勝地を画題とした作品で官展を中心に受賞を重ねた。

本図に見られる雨や霞に覆われてモチーフが柔らかく大気に溶け出すような描写表現は、四条派が得意としたものである。犬山城の絵には一羽の黒い鷲が、竹島では対照的に白い鷗がそれぞれ描かれ、画面にアクセントと深い余韻を与えている。实景に詩的な風情を重ね合わせる日本の風景描写の伝統が近代に受け継がれていたことを示す好例と言える。



竹島

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzōkan